

2007年9月5日

HIV 事件社内調査委員会
委員長 奥田 昌道

HIV 事件に関する最終報告書の公表について

本日、三菱ウェルファーマ株式会社（以下「会社」といいます。）より、HIV 事件に関する最終報告書（以下、「報告書」といいます。）が公表されましたが、その作成に関与した調査委員会の委員長として所感を申し上げます。

調査委員会は、報告書においてその発足の経緯につき詳細に記載されているとおり、HIV 事件に関する株主代表訴訟の和解条項等において会社が約束したところにしたが、会社の前身会社の一つであるミドリ十字が HIV 薬害事件の惹起を阻止できなかった原因について調査検討し、薬害事件の再発防止策についての提言を取りまとめることを目的として、社内に設置されたものであります。

調査委員会は、当局により押収されていたミドリ十字の資料が昨年 5 月に還付されたことに伴い、それ以降 1 年余りの間、還付資料、裁判記録、会社内に現存する資料などの膨大な資料を分析して調査に当たってきました。何分にも、HIV 事件の発生から既に 20 年以上の年月が経過しており（HIV 民事訴訟の和解からでも 10 年以上が経過しています。）その間ミドリ十字においても合併その他大きな企業再編がなされている状況の下ではありましたが、全力を尽くして調査を行い、その結果を報告書に取りまとめるとともに、薬害事件の再発防止のために 9 項目の提言をさせていただいた次第であります。報告書および提言の内容については、立場によって種々のご意見があるかと存じますが、調査委員会としては最善を尽くしたものであることをご理解いただきたいと思います。

なお、調査委員会の発足以降委員長を勤めてこられた國井和郎先生が止むを得ない事情により委員を交代せざるを得ないこととなったことから、本年 3 月より私がそのあとを引き継ぐことになったわけではありますが、委員長として 3 月から 7 月にかけての 6 回にわたる調査委員会の審議に携わった者として、調査委員会の各委員並びに事務局として関与した弁護士および社員の方々が、実に真摯かつ誠実に調査委員会の業務に取り組み、その結果をこのたびの最終報告書にまとめられたことに対し、深い敬意を表したいというのが、私のいつわらざる感想であります。

以上